

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第9号 (2007・11)
事務局川西地区自主防災会

第1回大規模災害セミナー出前講座 (in 高知) を受講して
国土交通省四国地方整備局 松尾機危機管理室長のご講演より
「四国の防災十二術」を掲載します。(11月6日開催分)

1. 地域の災害特性を学ぶ術

この地域が歴史的に災害にあってきた地域であることを知ること、自分が住んでいる土地の本当の地形を知ること、洪水や地震・津波などの災害遺産から過去の災害を学ぶこと水害や濁水をめぐる地域対立があったことを知ることにより災害の危険性の高い地域であることを学ぶことなどである。

2. 災害の備えを忘れぬ術

いにしえよりの継承を大切にせよ、集中豪雨による土砂災害に注意せよ、複合災害にも警戒せよ、防災資材の確保に工夫せよ、濁水に備えて水利慣行を学び節水に取り組むことなどである。

3. 経験則を生かす術

失敗や成功の意義ある経験の積み上げで成立した法則を知ること、台風の方向を知ること、山林の伐採は保水力低下を招く、稲光のような光の後大地震・津波が起こる、異変を伝える地震の前兆に敏感になれ、小さな変化に関心を持って、避難の安全水位を知れなどである。

4. 過去からの積み上げで 安全基盤を確保する術

安全・安心の基盤は過去からの積み上げと肝に銘じること、堤防・治水・河川整備のための先人の苦勞、人柱、導水、堰、池築造のための苦勞、地域の将来を見据えた品格ある社会資本整備の考え方を忘れるなどである。

5. 四国に伝わる信仰精神を大切にす術

弘法大師信仰、神仏信仰、地藏信仰、お接待の精神、お互いをいたわる気持を大切にすること、潜在的な風土資源を掘り起こし防災術に活用することなどである。



安政の南海地震(1854年)後に徳島市沖洲に建てられ、地震時の様子を示して大地震は百年に一度くらいあるので注意するよう警告していたといわれている

6. 防災の基本は逃げる術

避難の呼びかけは低いところからせよ、避難勧告は明るいうちに出すこと、浸水時の避難は「さぐり棒」を持って、地震時は津波に備えてまず避難せよ、いざという時は木や高さが10m以上の鉄筋コンクリート造りの建物の屋上に登れ、災害情報活用能力を高めることなどである。

7. 被害を減らすための知恵・工夫を生かす術

浸水時の知恵を継承せよ、地震が来たら火の始末をすること、津波は何回も来ると心得よ、水害時逃げ遅れ時は堅固な家の2階に居るほうが外に逃げるより安全、濁水時に水を分け合う先人の知恵を生かすなどである。

8. 二重の安全策を講ずる術

フェールセーフシステムを作ること、大規模浸水に備えた家づくりやため池に子池、孫池を作ること、大濁水などの緊急時に備えた工夫に学ぶこと、二線堤等の施設を作ることなどである。

9. 被害拡大要因を小さくする術

万一に備えてダメージポテンシャルを上げないように危険な場所に住まないこと、自分の頭で考える実践的訓練などを行い緊急時に危険を回避する人を増やすこと、過度的安全性確保のための越流堤を作ることによって被害を小さくするなどである。

10. 災害時に情報を生かす術

過去の災害情報を生かすこと、災害時の情報伝達方法を確保せよ、災害時には、隣近所に声を掛け合うこと、人伝えの情報伝達を重視すること、自分で情報を取るなどである。

11. 災害時にみんなで助け合う術


日頃の人のつながりを大切にする、自立防災の自覚、地域と行政の連携で防災に努めること、濁水時に水を分け合うことなどである。

12. あきらめない術

災害に立ち向かう強靱な精神を持つこと、災害時に最後まで諦めないこと、災害にあってもたくましく生きることなどである。

参考資料：国土交通省四国地方整備局危機管理連絡室発行 冊子『過去の防災話から学ぶ 被害を減らすための知恵～災害最前線四国の防災術～』

冊子の連絡先：TEL087-851-8061(代表)防災課内



五剣山の5峰のうち東の峰は1707(宝永4)年の南海地震で崩壊して、今では四剣山になっている。

お知らせ

このたび、地方自治法施行60周年記念式典に於いて、川西地区自主防災会が総務大臣表彰を受けました。かがわ自主ぼう連絡協議会に参画している関係団体の皆様のお陰だと感謝しております。

事務局連絡先：〒763-0092 丸亀市川西町南428 川西コミュニティセンター内
かがわ自主ぼう連絡協議会事務局 川西地区自主防災会 0877-28-5519 josin-c@mail.netwave.or.jp

